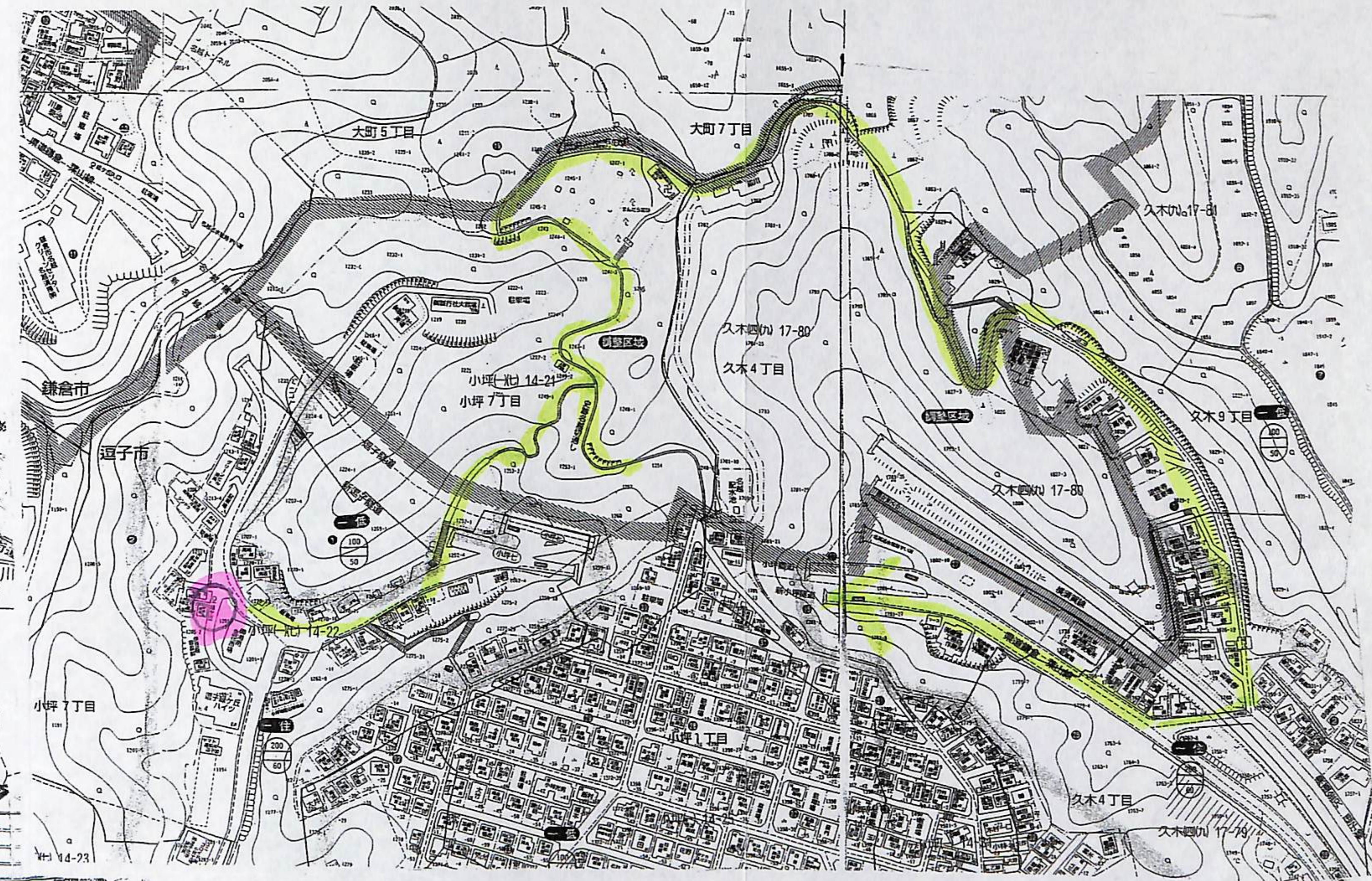
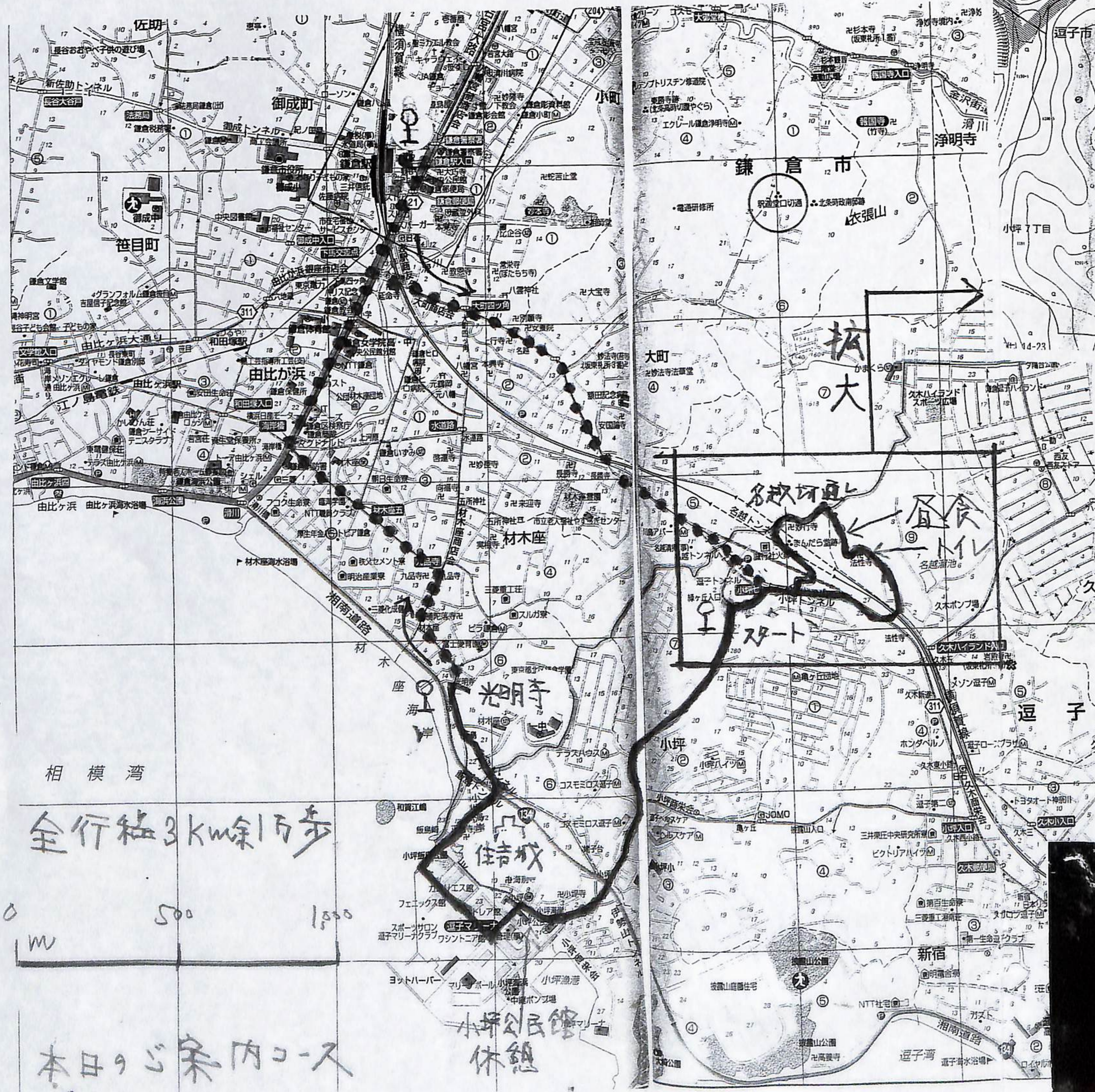


城を歩く会 11月定例会「日帰り見学会」

# あまり知られていない 鎌倉の南部を歩く

## 資料②「名越切り通し」を歩く

平成25-11-12 山岸弘明



### 本日の主要行程

- 10時00分 鎌倉駅東口(鶴岡八幡宮側)集合
  - 9時47分、10時17分 バス③番乗り場緑が丘入口行き乗車8分、170円、終点降車
  - 10時30分~11時45分 名越切り通し
  - 11時45分~13時15分 奥の院(昼食)、法性寺  
徒歩移動(1.5km)、小坪公民館(休憩) \*
  - 14時00分~15時30分 相模湾、和賀江島、住吉城跡、光明寺  
光明寺バス停から乗車
  - 16時00分 鎌倉駅解散
- \* 参考: タクシー  
0467(31)0101

### 今後のスケジュール

- 12月6日(火曜日) 日帰り見学会「皇居参観と警視庁見学会」(受付終了) 50名
- 1月18日(土曜日) 2014・新年のついで



その後地震などによって両側の崖が崩れるたびに道が埋まり、そのつど整地、修繕して新しい道を作ったためどんどんかさ上げされて道路面が高くなったと思われます。(中略)  
 しかし明治16年にトンネル道路が、同22年に横須賀線が開通すると切り通しも幹線道路としての役割を終え埋もれるまま修復の手を加えられることもなくほとんどなくなり、最終的に現在のようすがたになったと考えられます。

## 圧巻の「大空とう」と「大切り岸」

### 1) 緑が丘入り口から小坪階段口へ

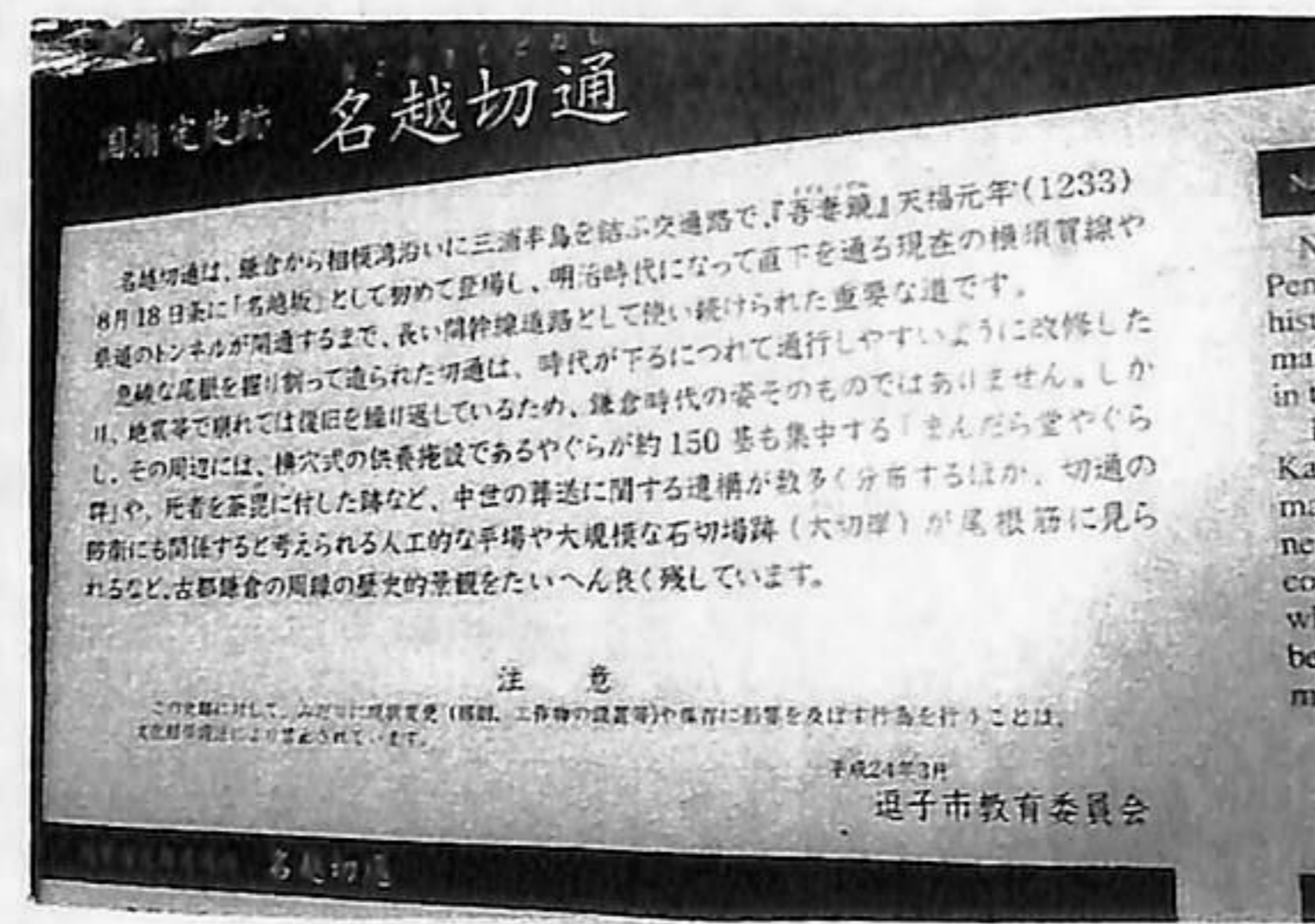
- ①鎌倉駅からバス8分、緑が丘入り口で降車。
- ②鎌倉特有のヤツ地で、名越坂=名越切り通しは正面、現在は名越トンネル、小坪トンネルが貫通している。右坂上に亀が丘団地、左トンネルを抜けると緑が丘地区に出る。
- ③かつて鎌倉城名越切り通しの城外玄関口で北条氏の守備隊が固めた。切り通し入り口は亀が丘団地の内だが造成のため消滅、今回は雰囲気が残る小坪階段口から「名越切り通し」を進む。
- ④野趣いっぱいハイキングコースを20mほど上ると切り通し本道に合流する。

### 2) いきなり最大の見どころ「大空とう(おおほうとう)」から「まんだら堂」へ

- ①そそりたつ大石が門のように迫る。発掘調査チームは「第一切り通し」とするが、通称を「大空とう」という。わずか1mほどの石のすき間をくぐり抜ける。
- ②枳形? = 左右の石上、削平地から外敵に弓矢を射掛け、石を落とす  
敵の進撃を阻む屈曲道、馬が進みにくいV字道
- ③大空とう前面に説明看板(前出)  
岸壁を掘り切って造られた道で、外敵を防ぐためあえて狭くしている。  
発掘調査の結果、旧道が地下深く検出、地震崩落による修繕工事などで現況は当時とはかなり変わっている
- ④切り通し道をしばらく進むと「まんだら堂」に出る。  
一帯は鎌倉時代の葬地で、地名はまんだら堂が置かれたことに由来するとされる。



小坪階段口



返子教育委の史跡看板



やぐら群=有力者が供養塔を納めたやぐら50基ほどが確認できる。

現在立ち入り禁止中のため「のぞき」だけとなる。

⑤鎌倉のやぐらの多くは供養やぐらだが、名越や大仏坂、極楽寺、釈迦堂口など切り通しのやぐらは本来の矢倉である。やぐらの変化過程も興味深い。

### 3) 尾根頂上をめぐる武者走り

- ①枳形虎口=尾根頂上の固め  
平場=兵士の集結場、陣営  
置石(すえ石)=外敵人馬の進行を妨げるためのじゃま石。防御と交通の便利さは相反、守りを固めると交通は不便になる。  
武者走り=兵士の移動通路。登ってくる敵の防御ライン。鎌倉城を一周する。一か所が破れれば鎌倉城は全滅する。

### 4) まっすぐ進めば鎌倉市街へ

- ①まっすぐ下がるとJR線路脇の石段に出る。改変が大きくこれといった見所はない。長勝寺、安国論寺、妙長寺と日蓮宗ゆかり寺が続いて鎌倉市街に入る。今回は武者走りをハイランド、法性寺方向に進む。
- ②市指定文化財・石廟=鎌倉時代末期から南北朝にかけての墓。めずらしい石造家型。

### 5) 三浦対決から石切り場へ変身?した大切り岸

- ①最近の調査で鎌倉を取り囲む鎌倉城の外周、山頂のすべてが岩山を削った絶壁で、切り立つ切り岸に固められていたことが判明している。
- ②しかし一方返子教育委員会の資料は、名越切通しの切り岸を石切り場跡としているようだ。当初鎌倉城切り岸として築かれた要害の地が、後年鎌倉石の切り出し場として利用されたのであろうか。
- ④大切り岸の絶景を鑑賞しながら法性寺へと進む。

以上



↑ 大ほうとう



まんだら堂



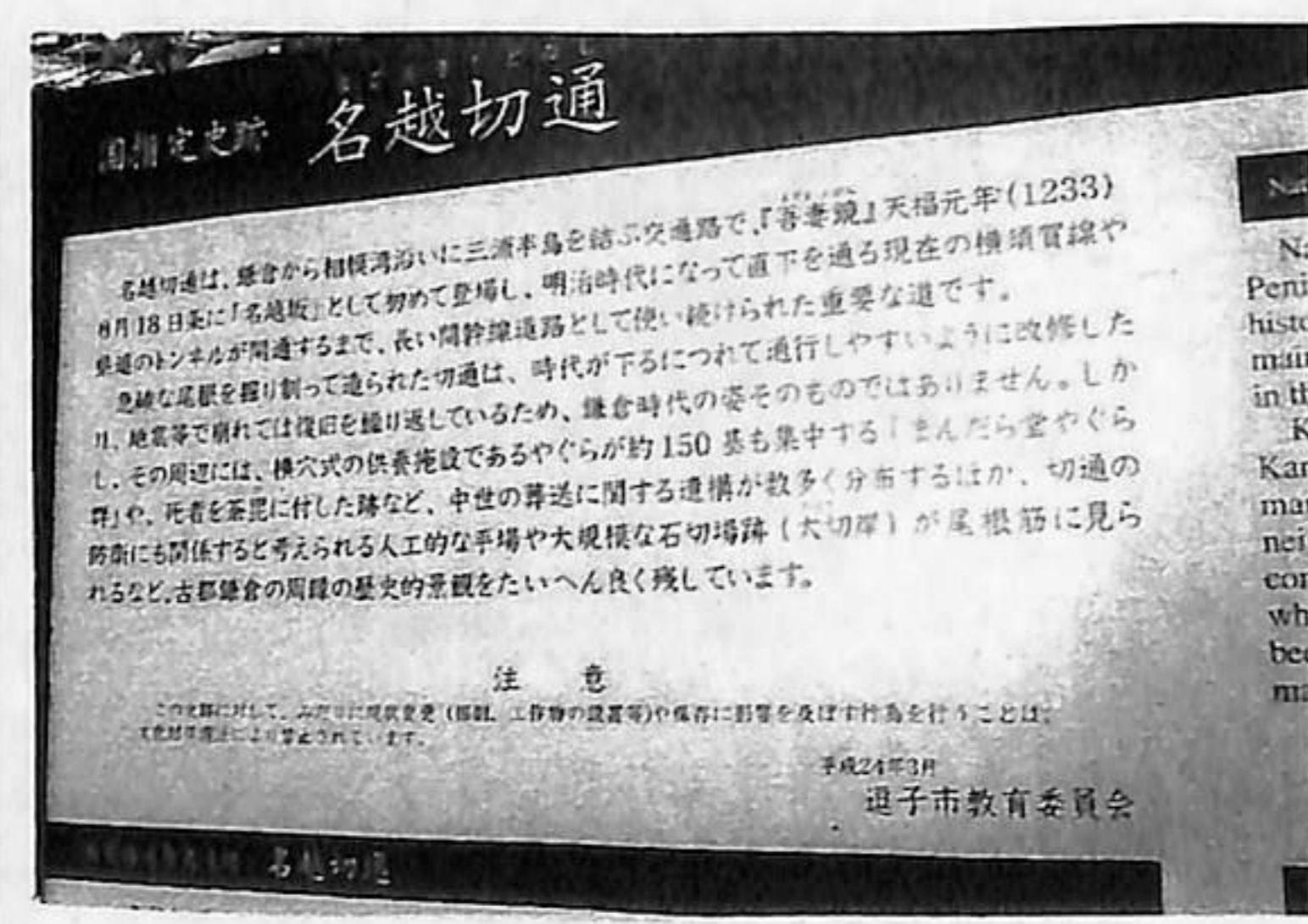
その後地震などによって両側の崖が崩れるたびに道が埋まり、そのつど整地、修繕して新しい道を作ったためどんどんかさ上げされて道路面が高くなったと思われます。(中略)  
 しかし明治16年にトンネル道路が、同22年に横須賀線が開通すると切り通しも幹線道路としての役割を終え埋もれるまま修復の手を加えられることもなくほとんどなくなり、最終的に現在のようになすかたになったと考えられます。

## 圧巻の「大空とう」と「大切り岸」

- 1) 緑が丘入り口から小坪階段口へ
  - ①鎌倉駅からバス8分、緑が丘入り口で降車。
  - ②鎌倉特有のヤツ地で、名越坂=名越切り通しは正面、現在は名越トンネル、小坪トンネルが貫通している。右坂上に亀が丘団地、左トンネルを抜けると緑が丘地区に出る。
  - ③かつて鎌倉城名越切り通しの城外玄関口で北条氏の守備隊が固めた。切り通し入り口は亀が丘団地の内だが造成のため消滅、今回は雰囲気が残る小坪階段口から「名越切り通し」を進む。
  - ④野趣いっぱいハイキングコースを20mほど上ると切り通し本道に合流する。
- 2) いきなり最大の見どころ「大空とう(おおほうとう)」から「まんだら堂」へ
  - ①そそりたつ大石が門のように迫る。発掘調査チームは「第一切り通し」とするが、通称を「大空とう」という。わずか1mほどの石のすき間をくぐり抜ける。
  - ②桁形? = 左右の石上、削平地から外敵に弓矢を射掛け、石を落とす敵の進撃を阻む屈曲道、馬が進みにくいV字道
  - ③大空とう前面に説明看板(前出)  
岸壁を掘り切って造られた道で、外敵を防ぐためあえて狭くしている。  
発掘調査の結果、旧道が地下深く検出、地震崩落による修繕工事などで現況は当時とはかなり変わっている
  - ④切り通し道をしばらく進むと「まんだら堂」に出る。  
一帯は鎌倉時代の葬地で、地名はまんだら堂が置かれたことに由来するとされる。



小坪階段口



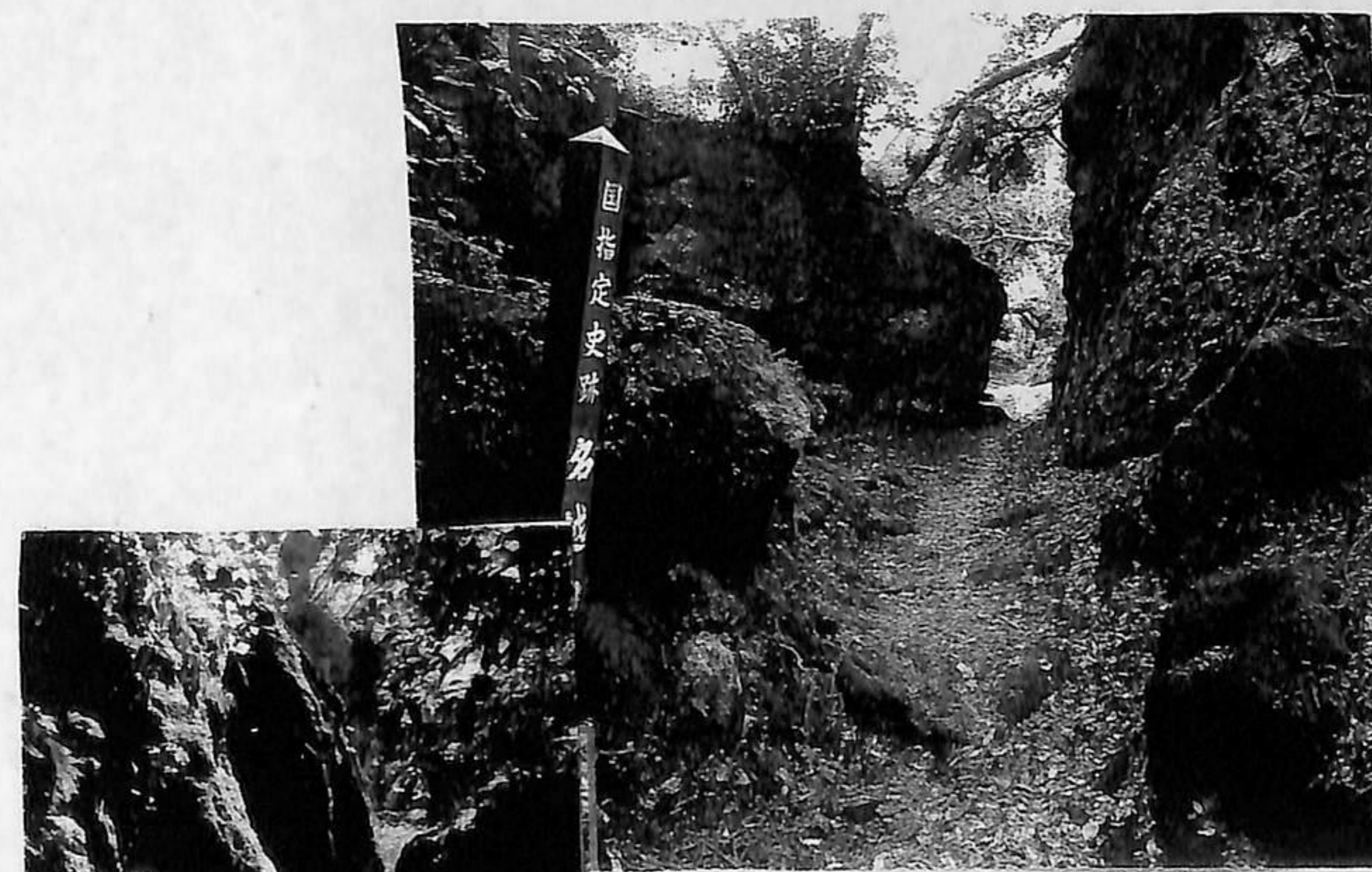
逗子教育委の足跡看板



やぐら群=有力者が供養塔を納めたやぐら50基ほどが確認できる。  
 現在立ち入り禁止中のため「のぞき」だけとなる。  
 ⑤鎌倉のやぐらの多くは供養やぐらだが、名越や大仏坂、極楽寺、釈迦堂口など切り通しのやぐらは本来の矢倉である。やぐらの変化過程も興味深い。

- 3) 尾根頂上をめぐる武者走り
  - ①桁形虎口=尾根頂上の固め  
平場=兵士の集結場、陣営  
置石(すえ石)=外敵人馬の進行を妨げるためのじゃま石。防御と交通の便利さは相反、守りを固めると交通は不便になる。  
武者走り=兵士の移動通路。登ってくる敵の防御ライン。鎌倉城を一周する。一か所が破れれば鎌倉城は全滅する。
- 4) まっすぐ進めば鎌倉市街へ
  - ①まっすぐ下がるとJR線路脇の石段に出る。改変が大きくこれといった見所はない。長勝寺、安国論寺、妙長寺と日蓮宗ゆかり寺が続いて鎌倉市街に入る。今回は武者走りをハイランド、法性寺方向に進む。
  - ②市指定文化財・石廟=鎌倉時代末期から南北朝にかけての墓。めずらしい石造家型。
- 5) 三浦対決から石切り場へ変身?した大切り岸
  - ①最近の調査で鎌倉を取り囲む鎌倉城の外周、山頂のすべてが岩山を削った絶壁で、切り立つ切り岸に固められていたことが判明している。
  - ②しかし一方逗子教育委員会の資料は、名越切通しの切り岸を石切り場跡としているようだ。当初鎌倉城切り岸として築かれた要害の地が、後年鎌倉石の切り出し場として利用されたのであろうか。
  - ④大切り岸の絶景を鑑賞しながら法性寺へと進む。

以上



↑ 大ほうとう ←



まんだら堂



古都鎌倉の世界遺産登録って

なに?

世界遺産登録への鎌倉の取り組み

平成四年にユネスコの世界文化遺産暫定リストへ登録されて以降、鎌倉の世界遺産登録に向けた取り組みは二十年以上にわたります。この間、鎌倉市では、世界遺産登録の推進を市の総合計画に位置付け、山稜部の発掘調査などの学術的調査を進め、また、学識者による鎌倉市歴史遺産検討委員会を設置するなど、鎌倉の価値を検討する作業を進めました。そして資産となる遺跡などの国指定史跡の指定、指定範囲の拡大、各史跡の保存管理計画の策定や整備などを進めてきました。

これにより、鎌倉市の国指定史跡の面積は約二一三ヘクタールとなり、鎌倉市の全面積の5・4%を占めるまでになりました。これらは鎌倉が世界遺産登録をめざす過程で生み出された大きな成果といえます。

また構成資産のうち「重要な要素」とした社寺や遺跡の範囲は、文化財保護法に基づく「国指定史跡」その周囲に続く山稜部は「古都保存法」に基づく「歴史的風土特別保存地区」となっています。いずれも開発行為などが厳密に規制されています。



大砲の矢倉



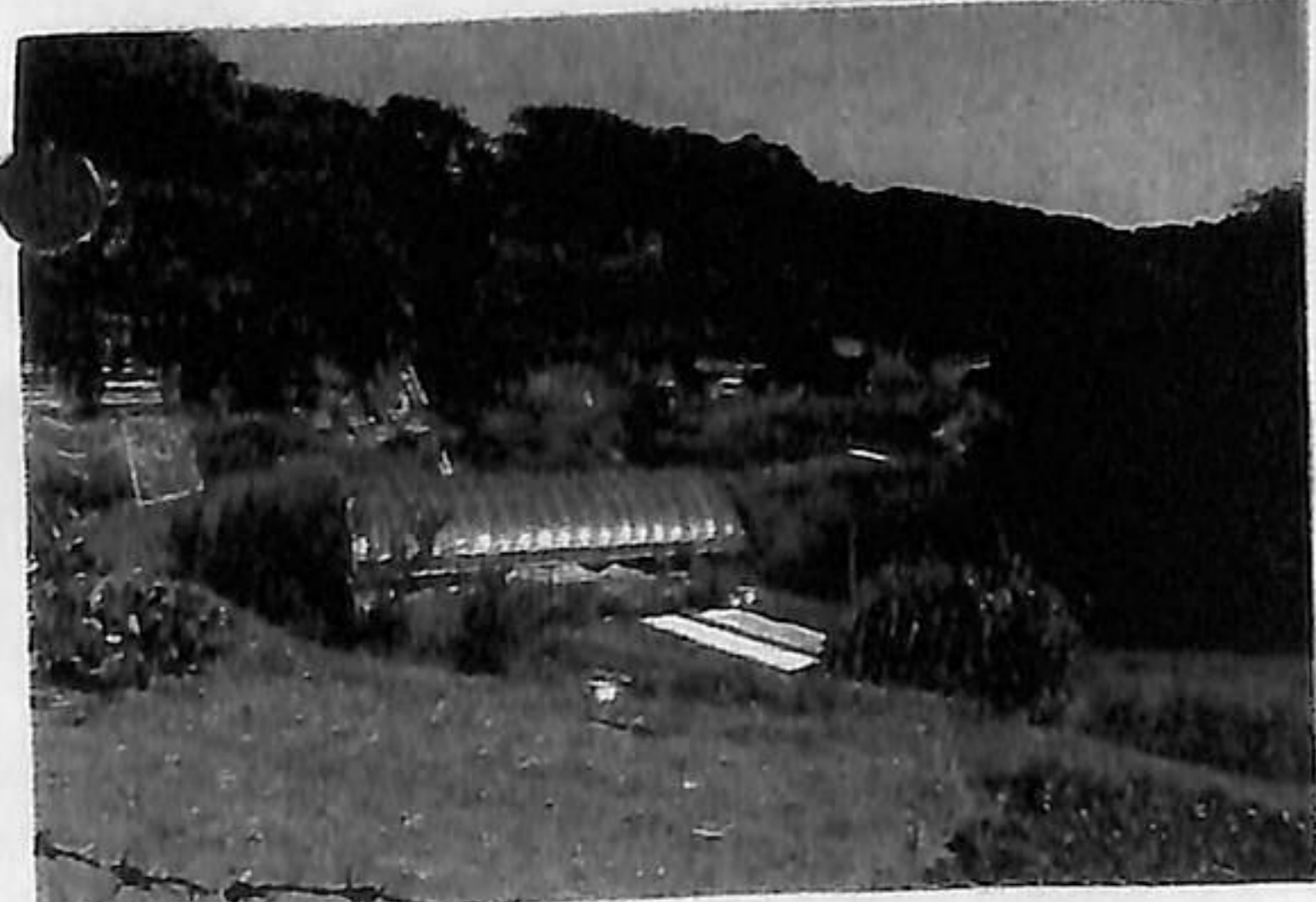
大砲の岩坑



大砲の岩坑



大砲



大砲の矢倉



大砲



大砲

白河小峰城



猿蓑代城



二本松城



飯盛山



そのり道  
 脇平川のうす紅糸  
 八重子

一泊旅行  
 成申戦争を収めた城を歩く  
 アルバム

二本松城本丸にて



飯盛山

10-8(水) 9(木)  
 52名参加

(松本新八郎)

ほうじのかっせん 寶治の合戦 かつせん  
 一二四七(宝治元)年に北条時頼の執権襲職の翌年に起った三浦泰村との戦いで三浦氏が滅び、執権の権力が絶対化した。三浦泰村は北条泰時の子として幕府に重きをなし、北条氏の家政に大きな発言権があった。ところが秋田城介安達義景も叔母松下禪尼が時頼の母であった関係で、急に北条氏の家政に重きをなして三浦氏と対抗していた。たまたま時頼は六波羅探題の北条重時を連署として家政機関の強化をはかろうとしたが、泰村はこれがひいては義景の権威をますことを恐れて強硬に反対し、ひそかに弟の光村・家村を將軍頼朝に接近させた。かくて安達氏と三浦氏との対立関係が北条氏に對する三浦氏の反抗というかたちで発展する。五月二十七日以来両氏はそれぞれ一族・家人を召集して事態が切迫したので時頼は泰村の次男駒石丸を養子として使柔をはかろうとし、ついで六月五日には万年馬入道盛阿に誓紙をもたせて和談を成立させた。これで不安も一応おさまったかにみえた。ところが事態の推移が安達氏に不利とみた覚智(景盛)は、和平の直後、にわかに義景・泰盛に三百余騎で三浦邸を襲わせ、泰村はだまし討ちに怒って応戦した。時頼は和平を破ったのは泰村であるとして、自邸を北条実時に守らせ、北条時定を大手の大将軍とし兵五百余騎で襲い、三浦邸に火をかけた。泰村は防戦のすえ、囲いの北を破って法

華堂に退き、寺で防戦していた光村もまたこれに合流、頼朝の遺影に告別して一族二七六人、郎従家子二二〇人同時に腹を切って死した。戦闘はその日の四時に終り、翌日首は由比ヶ浜に懸けられ、逃亡した一族はことごとく追及され族滅した。この戦闘で幕府には北条氏と対抗しうる豪族は一人もなく、幕政は専ら、北条氏の執権・連署によって運営されることになった。